

平成26年度 府立亀岡高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） 計画段階

学校経営方針		昨年度の成果(○)と課題(△)	本年度学校経営の重点		
<p>生徒一人一人が個性や能力を伸長させ、自立的に社会に参画し、人権尊重を基盤として、共に支え合いながら、地域社会の一員としての役割を果たすことが求められています。</p> <p>このため、教育目標や教育方針に基づき、数理科学科・普通科・芸術系が、それぞれの特色や持ち味を生かしながら、切磋琢磨し、学校の活性化を図ります。</p> <p>特に、次の3点を学校経営の基本方針とします。</p> <p>(1) 質の高い学習指導と確かな進路実現の具現化 (2) 社会的自立を図るために必要な能力の育成 (3) 地域・保護者に信頼される学校づくり</p>		<p>○数理科学科グローバルサイエンスの充実 高大連携、スマート研修をはじめ、特色ある取組が地域から評価され、志願者の増加につながった。</p> <p>○芸術系の充実 伝統文化フェスティバルへの出品、地域連携・他校種連携など特色ある取組が増加した。</p> <p>○広報活動、学校公開の充実 学校の活動を多くの中学生・保護者に伝えることができた。</p> <p>△国公立大学50人以上合格 合格者は29人。地元私大の希望者が増加した。</p> <p>△家庭学習時間の不足 学力向上に不可欠である。</p> <p>△「社会に通じる人」を育てる 指針となる「Can-Doリスト」の活用が不十分である。</p>	<p>(1) 授業内容の質的改善・充実 (学習意欲を高める授業の創造)</p> <p>(2) 高い目標へとチャレンジする生徒の育成 (国公立50人プロジェクト継続と実現)</p> <p>(3) 規範意識の向上と社会性の確立</p> <p>(4) 部活動の活性化とあいさつ運動 (素直さ、明るさ、真面目さの定着)</p> <p>(5) 人権教育活動の推進 (あらゆる教育活動に人権の視点)</p> <p>(6) 広報活動の徹底 (本校の教育内容の周知と理解)</p>		
評価領域	重点目標	評価			成果と課題
組織・運営	魅力ある学校づくりの取組	国公立大学合格者50人以上(国公立50人プロジェクト)			<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">評価</p> <p style="margin: 5px 0;">A 十分達成できている(目標以上の成果が得られた)</p> <p style="margin: 5px 0;">B ほぼ達成できている(ほぼ目標どおりの成果が得られた)</p> <p style="margin: 5px 0;">C 達成できているとはいえない (成果はあったが、目標に達していない)</p> <p style="margin: 5px 0;">D ほとんど達成できていない(ほとんど成果がなかった)</p> </div>
		学習意欲を高める授業の創造(授業評価の向上)			
		数理科学科のグローバルサイエンスの充実			
		普通科美術・工芸専攻の充実			
		広報活動・学校公開の充実(学校通信年6回発行と志願者増加)			
	学校評価制度の活用	各学科・コースの在り方を検討し、学校改革を推進すること			
	校内連携の充実	学校関係者評価の実施			
	学校評価制度の活用	特別支援教育体制のさらなる充実			
教育課程	特色ある教育課程の検討	生徒の希望進路を実現する教育課程の検討			
学習指導	学習習慣の確立	計画的な課題(宿題)の提示と家庭学習習慣の確立			
		読書活動の推進(貸し出し図書が増加)			
キャリア教育	キャリア教育の推進	Can-Doリストの実践と成果の検証			
生徒指導	規範意識の向上	基本的生活習慣の確立(一日平均遅刻6人以内)			
		情報モラルに関する指導の充実			
進路指導	進路指導	進路関係資料の有効な活用			
人権教育	人権教育の推進	教職員の認識を深化させる研修会の開催			
環境整備	美化活動の推進	美化意識の向上と清掃の徹底			
研究指定等	府立高校特色化事業(サイエンスネットワーク京都)				
学校関係者 評価委員会 による評価					
次年度に向けた改善の 方向性					